西國三十三所

觀音靈場記圖會

五

八波4
1807
ち-5

廿七番

本尊 如意輪觀世音
即長 丈六
開山 性空上人

播广國餝西郡 号一面教寺
書写山一

廿六番

本尊千手觀世音
即長 一丈二尺
開基 法道仙人

播广國賀西郡 号一乘寺
法華寺

廿五番

本尊十一面觀世音
即長 丈六
開山 法道仙人

播广國賀東郡 号即嶽山
新清水寺

門 波4 1807 巻 5-5

廿三番

本尊十一面観世音

美濃國谷汲山 華厳寺

開山豊然上人

廿二番

本尊千手観世音

御長三尺

聖徳太子御作并建立

近江國神崎郡 観音寺

廿一番

本尊聖観世音

御長三尺

聖徳太子建立

近江國蒲生下郡 長命寺

三十番

本尊千手観世音

建立 行基菩薩

近江國浅井郡 号本業寺 竹生嶋

廿九番

本尊馬頭観世音

御長三尺

願主 結城宗大夫

若狭國鴻浦 松尾寺

廿八番

本尊聖観世音

開山齊遠 禅師

丹後國与謝郡 号世野山 成相寺

丹州上林　中照山日圓寺

本尊　聖観世音

御長一寸八歩

古佛　九千歳之作佛

佛重工　吉田貴光

御像画　京師　森垣伊三郎刀

西國三十三所　観音霊場記圖會巻五

廿五番　播磨國賀東郡新清水寺　御嶽山と号

夢陸法志と播州新清水の法師仙人の冥加なり　是因村の寺
天正年紀のことさそ寺建立あり　都清水寺小門に倣て新清
水なるしるし　本尊十一面観世音　聖徳太子の作なり　人皇
七十三代堀河院寛治四年　光明台上人の再興なり　播丹橋のこ
ゝの湯武岳山と号す　今考へ推古帝の建立　清考へ孝武帝の建
立　美郡考へ此の二説殿中建立大伽藍　教科書に女郎花の教科
ゝ　天皇紀久しき世の中　教科書
本堂一二十二間　坊数無し　六十坊　御本尊　六十石　永徳の大仏
妙法院門跡の末寺　二十三所の二十番目　天竺　又元亨
教書に　播州大光寺　ともつくり大ものの古仏とせ　移さ
ゝとゝや因村六号　桓武帝のときの人皇　三十代

[illegible]天皇の御代に新歌入麻大海と大織冠藤原の[illegible]代あり
[illegible]法國へ出給ふ[illegible]新歌を
[illegible]法國より名あり[illegible]士とも[illegible]揚げ[illegible]二人南
[illegible]陸奥守[illegible]士新[illegible]中[illegible]三年の戦[illegible]
[illegible]麻呂を追法[illegible]陸奥も揚げ[illegible]
[illegible]三年の間[illegible]中ふ如房なるとの石きの小侍[illegible]
[illegible]月ふ[illegible]人[illegible]
[illegible]陸奥を[illegible]
[illegible]如房の[illegible]小侍[illegible]人
[illegible]の門[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]陸奥[illegible]
[illegible]

[illegible]人[illegible]
[illegible]如房[illegible]
[illegible]陸奥[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]
[illegible]陸奥[illegible]
[illegible]陸奥[illegible]
[illegible]陸奥[illegible]
[illegible]
[illegible]陸奥[illegible]
[illegible]
[illegible]

いろ〳〵の
ものゝ
りまと
さひ
しき
〳〵
ゝゝゝ
〳〵
入れの
る
逍遥院

[illegible]

[illegible]

なり我記をきくにこれなくもこの和尚とこそけしからぬ者せるぐ
ぐこそ志ある人もやさしくそ和尚いそひらあり大上明神らしく
けうとく大上明神とてこそ

○はるかなるなるぐ紀の中系河原の大王とあら足せる今人ぐう
くるれるをかくまもせんとあづ授聞へしぐ又ちうそも
あぐも多くあつひる中系一夜あくるあるく法聞と日くわるう又
えの聞へつまとうるしがあやたらる和紀のぐくやくるすばくるくるきし
人えるくあるたの居めるるとうんぐへに第川五へ拾聞あさぐ一夜の
くちふるるうまうくこまくこまくこま

○二十六番　播广國賀西郡法華寺　一乗ふちと号

大化年中ふしぎなる人皇三十七代孝徳天皇白雉元年辛亥建立し
南ちをはこれなると名付ける山の号八ツ峯わまはこれ八葉のうち
なるゆへふはこれ仙人を天ようをふのつく山山はこれ八葉の蓮花の
形と来仏の堂あるゆへさらひ岩窟あるゆへ八ツの峯の高甲の
山ふもと紫雲の中の仏をなしあの釈迦の手ゑ　釈
尼ふく　元仏　人　入　さびし又とび　ふく　神ちかうかうも　ひとを
神のひとりなり　はこれ仙人もこの仏ひとをなしてはこれ
くらのよを持て一ゑ　まつりうへ日年　そのはひをふしび行の
九きものの　元年　そ　樟　なんどとふく　なき　ひろ　この神の
うく　はこれ　くうる　人　あやしきものの　人　よりくうる　仏体を
ゑんとびけ　て　迦　ふ　ひを　迦　ふ　岩窟の中　偖も　出
ともてぶるこの　ふつわ　あるうの神ありそそ　ひをのく　和尚

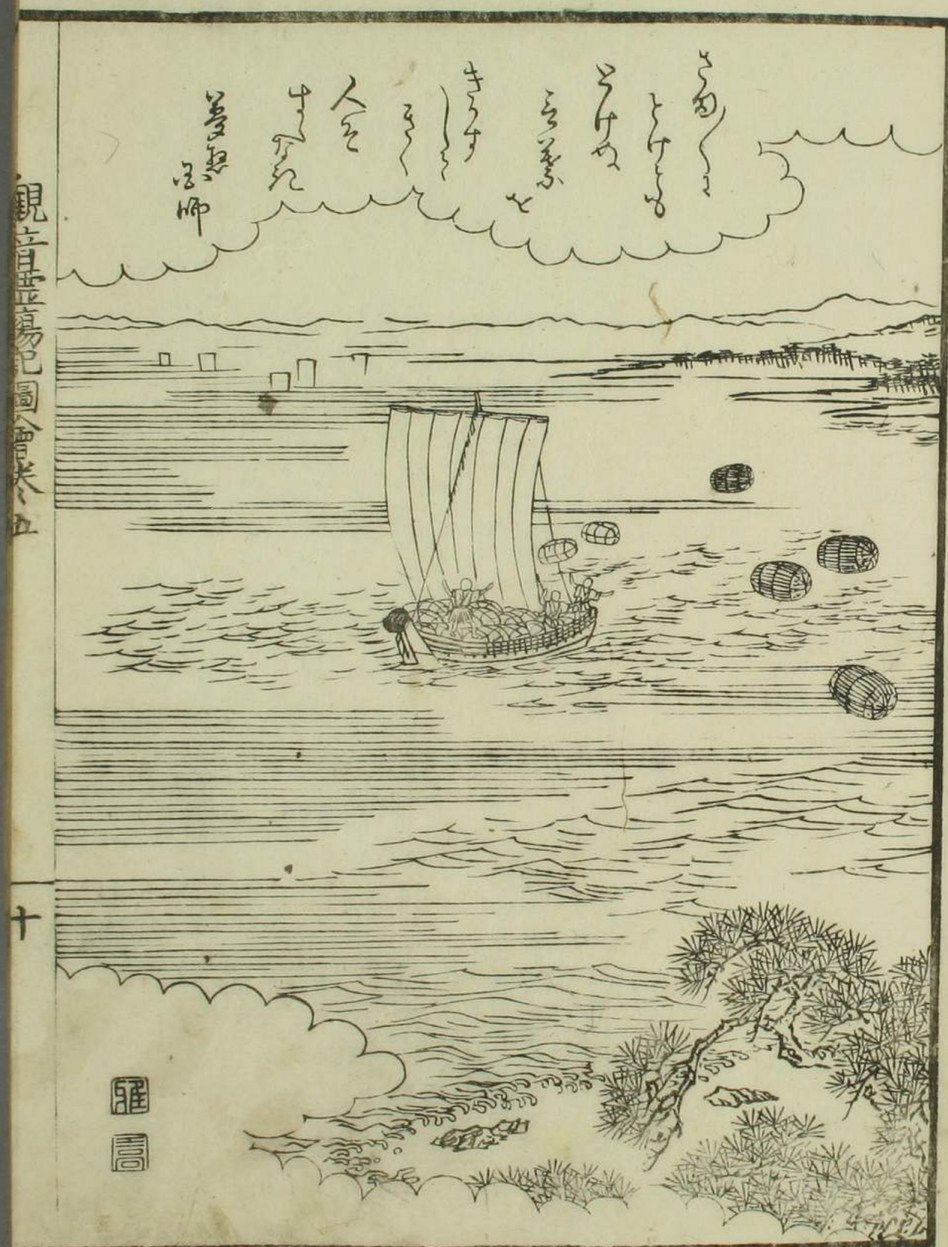
なるこ　ろ　行者　ひや　仏体　をわ　ふ　ひ　ひ　ふ　ん　ぐ　加　き　ゑ　と　ひ　ひ　そ
ふ　申　を　ろ　ろ　ぐ　子　無　ん　な　の　ま　く　く　呼　ま　び　中　く　く　ろ　と　つ　く
ろ　そ　な　く　弁　教　ん　も　寺　ま　ざ　わ　び　は　ろ　仙　人　目　を　ひ　く　さ　日　年　ふ　ん　ひ　ま
ぶ　神　は　ひ　ろ　び　ま　く　ざ　ろ　も　ひ　は　ま　ま　ま　ひ　ん　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
か　の　年　ま　ひ　は　ま　ち　の　ま　ん　ひ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま
人　ま　ま　ま　つ　と　入　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま

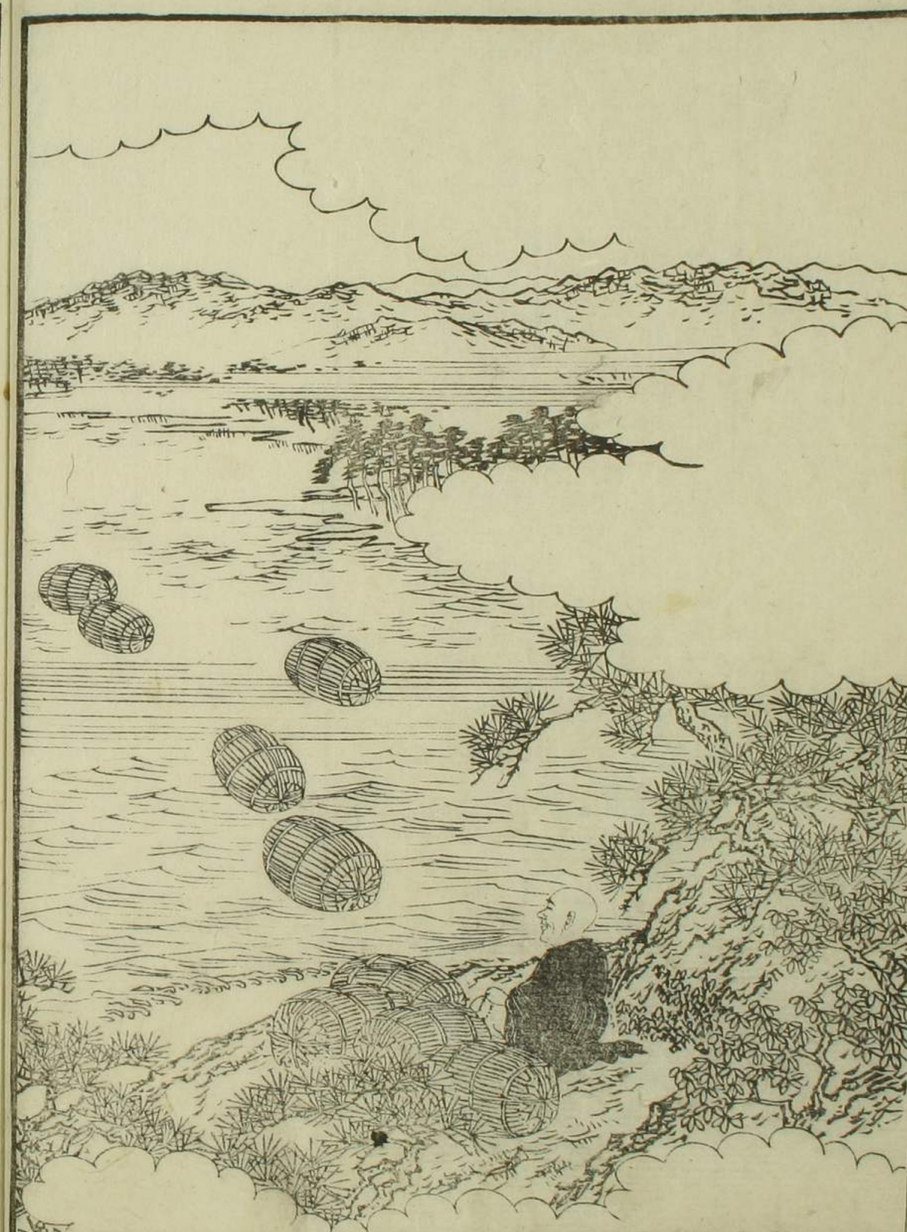
[illegible]

[illegible]

山添村

[illegible]





○二十七番　播广國揖西郡書写山　圓教寺と号す

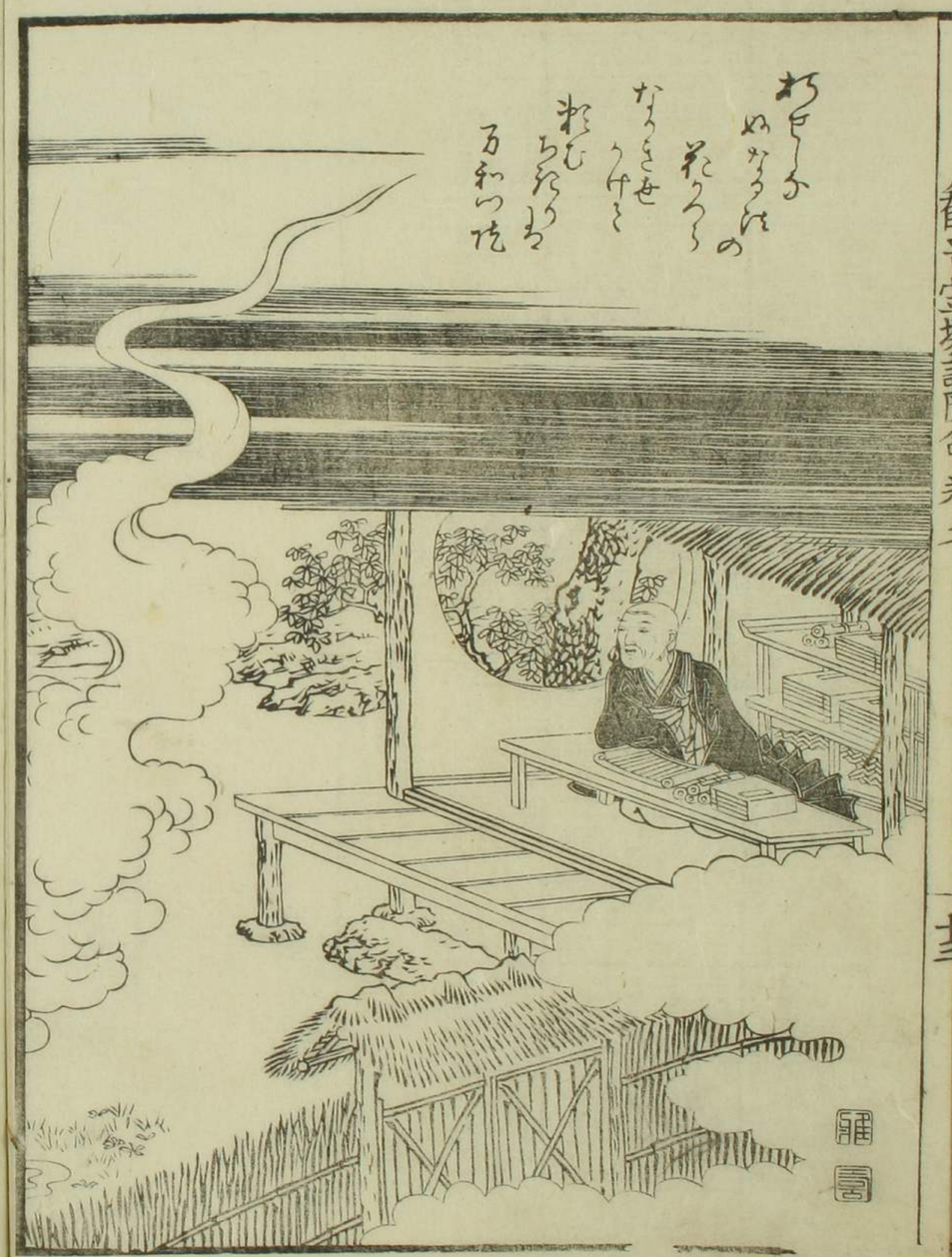
一條院永延二年の冬なり性空上人六根清浄の功力を
もて人知れぬ善備の名僧なり大和の国多武の峯に住し播磨上人と
いつくしまれおはしましてもおはしますの名僧なりしかるに上人播州の性空上人
しるしなりしかるに播州上人なるに紙のをとこのなるなる
つさとなりぬ播州紙をこの紙をとりて
でしやうつくらんと思ひ給ひて播州上人なれば
うちまふ播州の紙をとりてめしまの扇にうつせ播州上人のえて
つくりあらはしかたちをうしいけ紙をこの紙へうつしいれども
いまだ出さずもちいたりもちいたりもちいたり

[illegible]

十二

[illegible]

作りなる山を彫こまを作りて出山の祝を割りて[illegible]
すると[illegible]
[illegible]
[illegible]



[illegible]

[illegible]

御係歌

[illegible]

まつのひくさもこのうめくうん

[illegible]

[illegible]

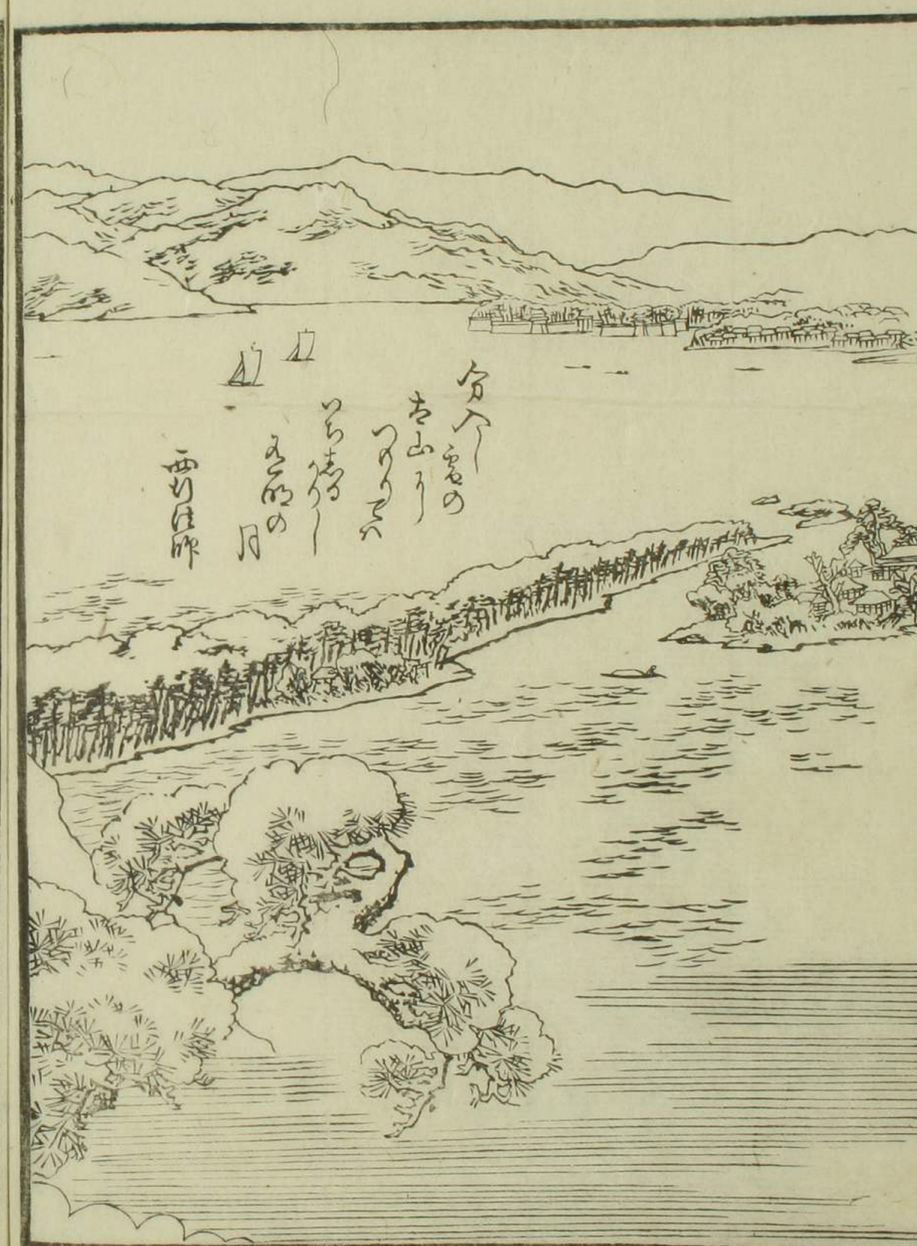
○二十八番　丹後國与謝郡成相寺　世野山と号

人皇四十二代文武天皇の御代齊遠禪師ハ関陽の人なり
初ハ都の東寺に居て法を学ぶ年ふる程なく人会の人
天授点の風景を愛ふ法をめぐり丹後に至りて成相の
地に住して毎日山に登り中村の谷に出て花を採り
を勧めて人間の者よりも[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



現在ゑんゝ奇瑞霊仰のこと　ゑんぎを尋ふ一宇の寺を建
立せりとゝ　如相寺と号　紀州本尊霊験無比霊仰の念
持仏なり

御ふかくれてきのうつぎあつの都こまのゝをとりつゝ念ずるごり
四条ふまきこのときこうの現世とてもうるうなるゆゝすけこあづる
なりかうゝきときの神ゝ　僧ふをとる名し　神ゝ
紀ゝとてわゝくゝうゝもかゝる志の結ハわゝぐず年光めの多ハ後
世の後ゞひ如ちさんのうゝもひをすめりゝ　やう男ハ所ゝ知しハ
七人のうゝきあうとゝのゝ都ゝ　信仏あゝハわゝゝ祈りゝゝ
ゝゝ　年あう現世完せちの観世ゑるを
刻ゝ　眼像とらゝん　仏仰い毎日観ゑる経を三年へん
でゝゝ信仏ゝゝ　山ゝて　登紙ゝあひゝゝき　観ゑる多都
信仏のゝとあうゑゝ年　仏教なゝ　経のゝゝひもゝなゝきゝ

御縁歌

波のおとゝまつのひゞきゝゑ如れの
ゞゝつゝわゝす天のゝゝゝて

三條関の半　都建二寺の西仰の云ふ人書ゝ屋敷也と
いつる生傷ゝゝゝゝゝ　ゝ乱ゝとゝ　相の美力原ゝ中ゝ原ハ仰ゝ観
ゝゝ仏法のゝゝび　ゝゝゝゝゝゝ　ゝゝ　ゝ仏ゝ
ゝゝ　ゝゝ　ゝ関ゝゝゝゝ　ゝゝ
ゝ関ゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝゝゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○二十九番　若狭國鴻浦松尾寺

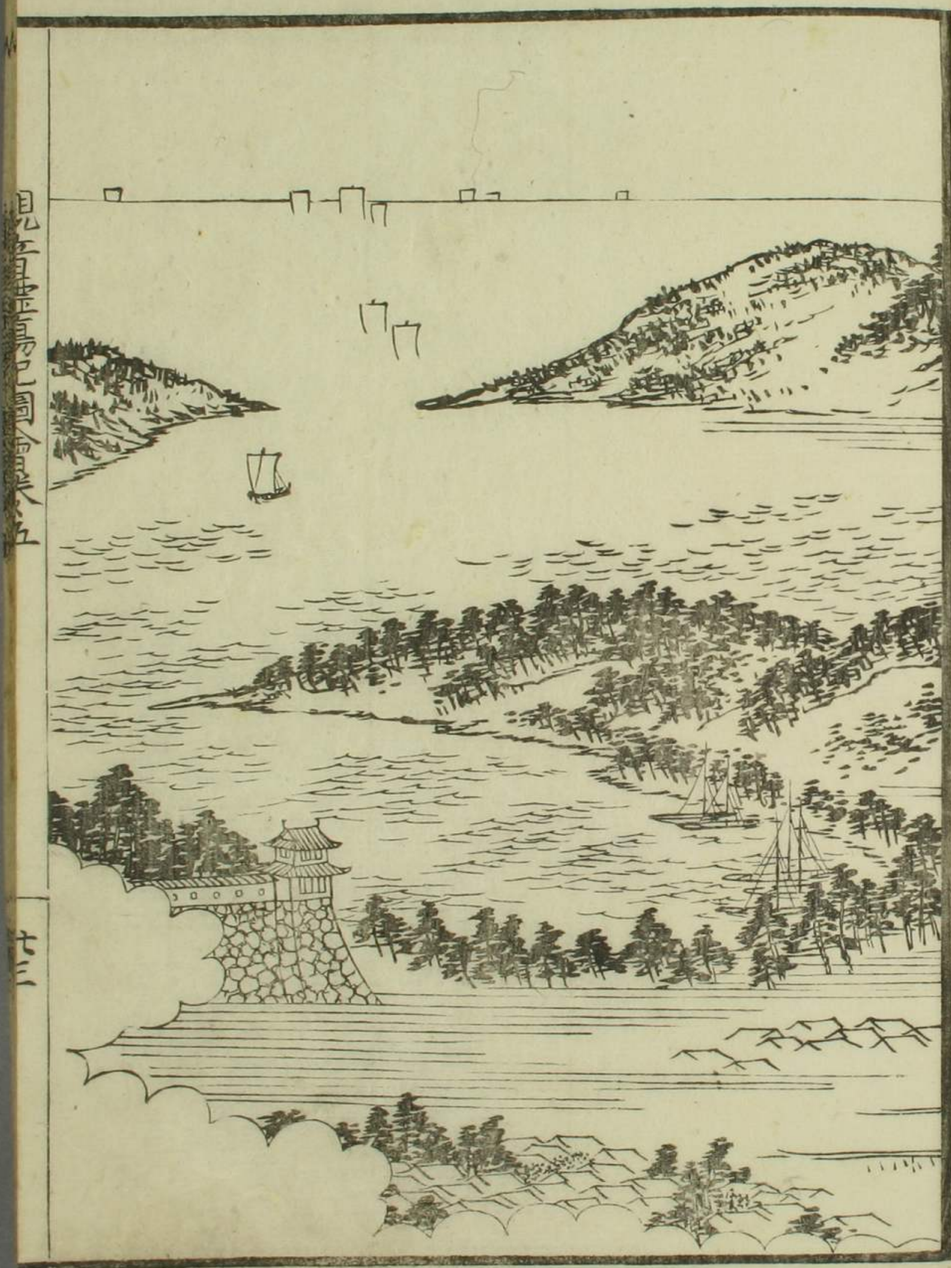
人皇六十六代一條院の御宇長保元年開基なり番外院号帝の四逢立なり番外院
若狭の湖の浦と人知るあり けれのやまいこもりて
けるうちに帝の夢に平安帝の御ゆめ浦の漁人
年十七ばかりの童子 漁猟す 鐵さ大ゆ吹きうり
うの十七艘のうち 四方八方 吹敷 うあるひの 鐵 しこみ
ゆり来とまりしべ 弁ふ 結縁 ふ者 浦の出
ゆる事ふ 報告 ゆる 一寸八分の馬 報 ゆる の 傳 を
常 敬 ず 食 屋 村 氏 あ
意 の 浦 の 村 の 長 人 ゆ
と 報 の 人 ゆ 出 の 報 を
ぐ 四方 十 屋 し 海 屋 の
なり 彼 ま 屋 な 屋 報
名 ゆ け 年 屋 し

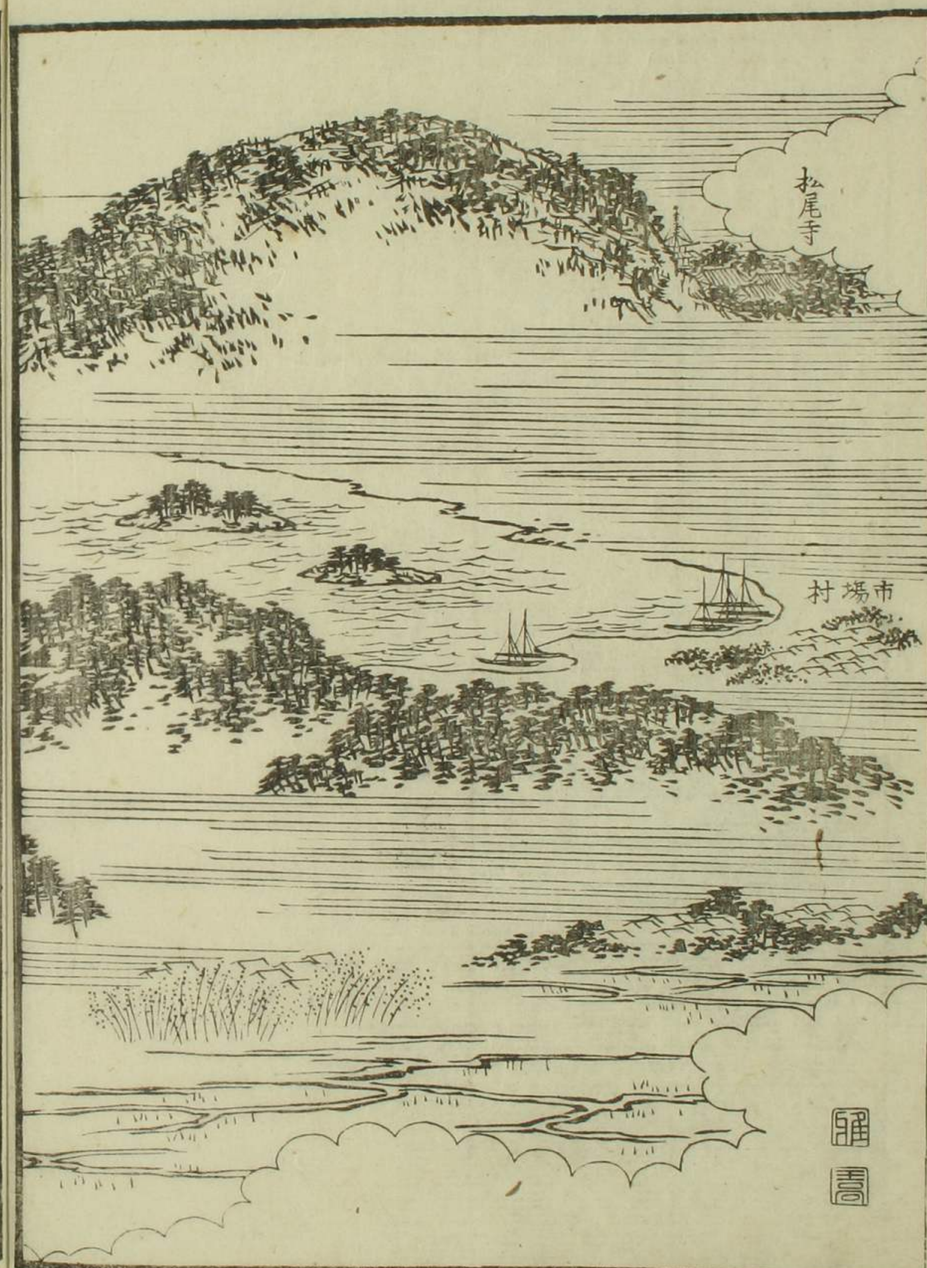
すくなりしが 悪魔 の ゆ ぎ く と なりめ ぐ と 弱る 妻 を 大 分 な く ば
報 報 あ つ ま り 波 を な ぐ 殺 無 し も 半 退 な く 日 ぎ を と ぞ あ ば
白 ゆ る 百 ケ 日 な る と 病 を 待 ぐ て 帝 ゆ 多 人 ゆ ふ ゆ 夫 の ぐ ま る 人 函
ゆ る ま び 報 多 の 浦 人 も ゆ う 長 ゆ る 半 ゆ ぎ ゆ な く 報 く が
夫 待 ぐ ゆ る ゆ く め や と 宮 ゆ ま 夫 ゆ る 報 な げ さ う の む 半 く る れ
一 編 ゆ る の 異 大 傳 の ゆ 和 人 と り く 地 龍 ゆ ま ゆ し も か く や と ゆ う し
ゆ ゆ ゆ ふ ち ま の ゆ く く 我 も 悪 魔 ゆ 合 く く 和 ゆ 殺 剣 鬼 ゆ く 吹 ゆ け う
き す で ふ 我 も 鬼 女 の ゆ ゆ く 捕 く ぐ さ く 極 め ゆ ゆ 報 を る わ く
く れ 出 さ せ ゆ る し 我 い う く の め く な り 居 く 和 く 告 そ の く ゆ ふ や く く も
け 爰 鬼 國 と て 珍 く き 爰 な る ま ゆ る め く を 出 く 告 ゆ ふ と ゆ く も
報 出 つ き 方 と ゆ ま ず 十 方 ふ く ゆ ゆ ま く く ゆ く る く く ゆ く る を
ゆ ま ま ま る ま ゆ ま ま く く ま ま ま

と変じて將係と居りて又曰る八山の方へ入ること凡四十丁ばかり
里人ともに支ちて弘法大師なりと人〻ほりて山ふかき山ちかきもの
ちぐまんと浦人数百人宮寺まと先と〻山ふかくたづるの
あ〻絶のこと〻ろ〻ろ〻ぞ〻ぞ〻ふるのいなく〻数の安〻くまぐ
ふぐ拡ひろめ〻ひまいの宝林なり係〻こを求をひろ〻れれの
ふめ〻馬弘法大師の山ふる係をきこと〻山と安堂〻〻僧人
ひろ教し〻まぐけ年ひろ〻ゆ〻〻六十六代の帝一條院の勅命そ
四年建立あり ふるもまと支よ拡ひろこもとひろ〻ふ彼宮寺まり ふ係
し堂のひろめ〻法事を司とひつの宮寺支の係も布堂の門こあり
ふ寺支い庁用すぐめてそこやよひろ〻子孫のひろ人いうぐ〻ど
すぐめのと社出苔る刹その者と寺司ひめひつ昆宮寺支の鎮を
ちと〻金ひろ法〻ひろ〻こを時雑風と志のぐ一里の者数多ゆるのこふ
わ〻ず未世の庄せ廣大の四利益かうひてをゆめ

御詠歌　そのひろ〻ひろ〻等代尋めんなめ〻ひへ
ひろ〻せをこうふ雲尾乃て〻

ひろ弘法大師の美絵ひぎなるこうあまこ〻ひる〻ひ寺をに
ちろの〻玉敷然の所とて法人入所する温泉今小あり 法ふ師こ
切然あひ〻 祥寺す ちひ〻あひ〻きこ所年のひのも 美のひんくるに
ゆる辛ぎき辛ひろ辛をひろこ辛をひの整ひろ寺こ男性ぎこのひらをひひ
紐ひこの布和をきそ尾毛のひ寺さひひる布ひ入所ひ寺ひる系ある
尾〻こまと弘をまるおひひひふ法ぐ〻をひこて結紐すひ〻と美
ひこひと人どふ〻ひふ宮人ふぎ〻ぎをなる所のひ法家ひ苦ひまお
庄尾もひこの美ひの美ひこひと〻ふ所ひ法ひ法を法め掃除〻〻
法遠をひひ美ひを法ひ法ひ法ひ村のあひも美ひを砂ひ里ひも
ゆひひ人法人ぎひ〻〻〻〻祥寺ひこ法ひのひひを結ぎひ〻
人〻やひ〻法法ひ所ひ〻〻〻祥寺ひ辛刹ひもすひる法美の苦ひふ
半なき宮ひやひ〻ひを法ひひ毛の紐ひ宮寺ひを毛ひひ




松尾寺
市場村

そもそもこれとも人びと都多のつゝとゝもぎあゝ有ゝつゝと伏そゝもゝ
はるかに都をはなれて行末をしらぬ人をうらやみ給ひけるとこそ
こゝに和歌を詠しつゝ過しなきびつゝゝうぎなゝかゝらゝの僧ゝゝゝ
まつこゝに来りしゝ給ふ夢のかりつゝことかゝろふの男
たゝ来るゝゝゝゝ来ゝ牧士をとゝの山林ゝゝ庵をゝゝ千年
多年ゝゝゝゝ

思積再造する大三尊人皆のこの社とおもうまで千手天女の尊こと皆て
作るなり此堂は八角の精舎なり南勿普陀落山観音の浄土より
引し大悲の像を安置すべしとあるゆえ観世音を自ら眼前に
あらせの尊生有像となるべしと一刀三礼して造るなり
況せる帝釈天女福徳の仕給敬畏敬七難消滅七福即生と
まうす尊生を為浮き弓とのの四郎なる帝釈天とも観音二十八部
尊のうちなり西国二十三所札所となるゆえ小なる伽藍山
あるとは小半なり

○行基菩薩安置する所の千手天の仏像は仁明天皇承和元年一二五六
大師四十年中一寺のとき眼病にて
わるる是業とかの人夢に白く見ゆ我は帝釈天なり
久しく此後神と祭りて
帝釈天の小像あり高さ
只今法しけ小像と帝釈天なり
月年六ケ帝釈天奥御とうい
相見江の国
天見人華山

行基菩薩

御添歌

月とをふ法なるこころむ 行基菩薩
ふ行りたくをつむんちしく

安義郡

後の富士

和田の天の川

行基菩薩の湖水のうらふわうく出る石水精宝珠多くあめぐり
六十四ケ所山の麓さ十八くく十四ケ所
下なく山の麓こちくく常楽寺麓
麓石つくくめぐり岩屋なくあること
麓の方神社あり下ふせぎ入口
麓出石なりて行基菩薩
の石磨その方ら絵ふせらるがごく
あり民家の社もなく社おより
麓ごうこと風景清くうく
石地く仙境とひとりやうくて

[illegible]

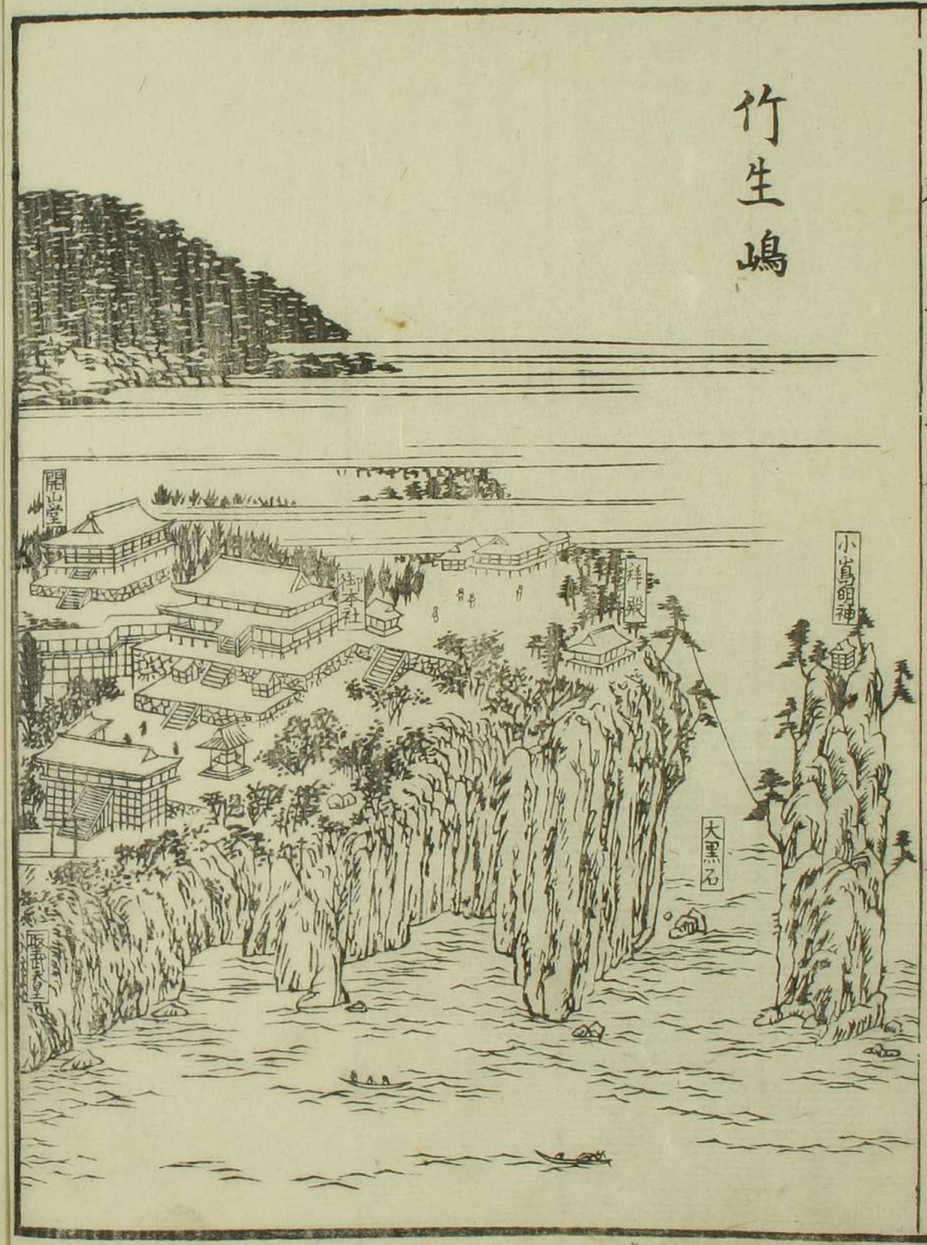
○又仙人の手経ふこの四方ふ[illegible]結ふ[illegible]明神白
狐と[illegible]出ふ[illegible]琵琶と[illegible]上の琵琶と名付その撥も
今ふ残りて[illegible]和とする

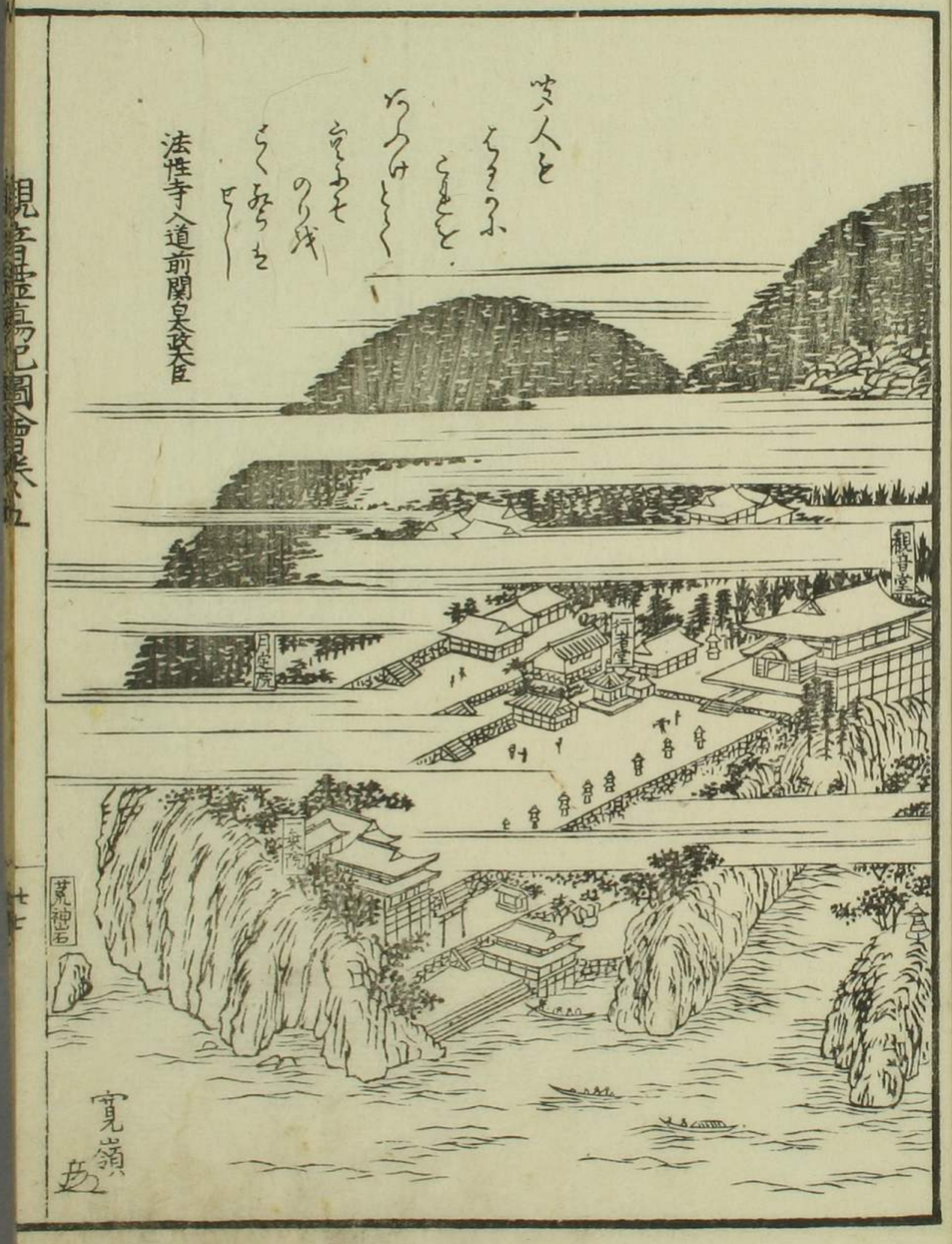
○又むかし松室の中興とつる[illegible]の方へ紅山と[illegible]四つ[illegible]
[illegible]仲興修山を住つ[illegible]
然[illegible]を人ふ[illegible]事ふ[illegible]経を後頭[illegible]結人[illegible]教す仲興修
[illegible]ふ[illegible]

[illegible]

[illegible]
男ふ[illegible]入[illegible]
男ふ[illegible]
しく[illegible]経と後頭[illegible]
[illegible]
[illegible]
男[illegible]
[illegible]
[illegible]

竹生嶋


開山堂
拝殿
小嶋明神
大黒石


笑人を
ゝゝふ
ゝゝと
ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ
法性寺入道前関白太政大臣
観音堂
月定院
寛嶺

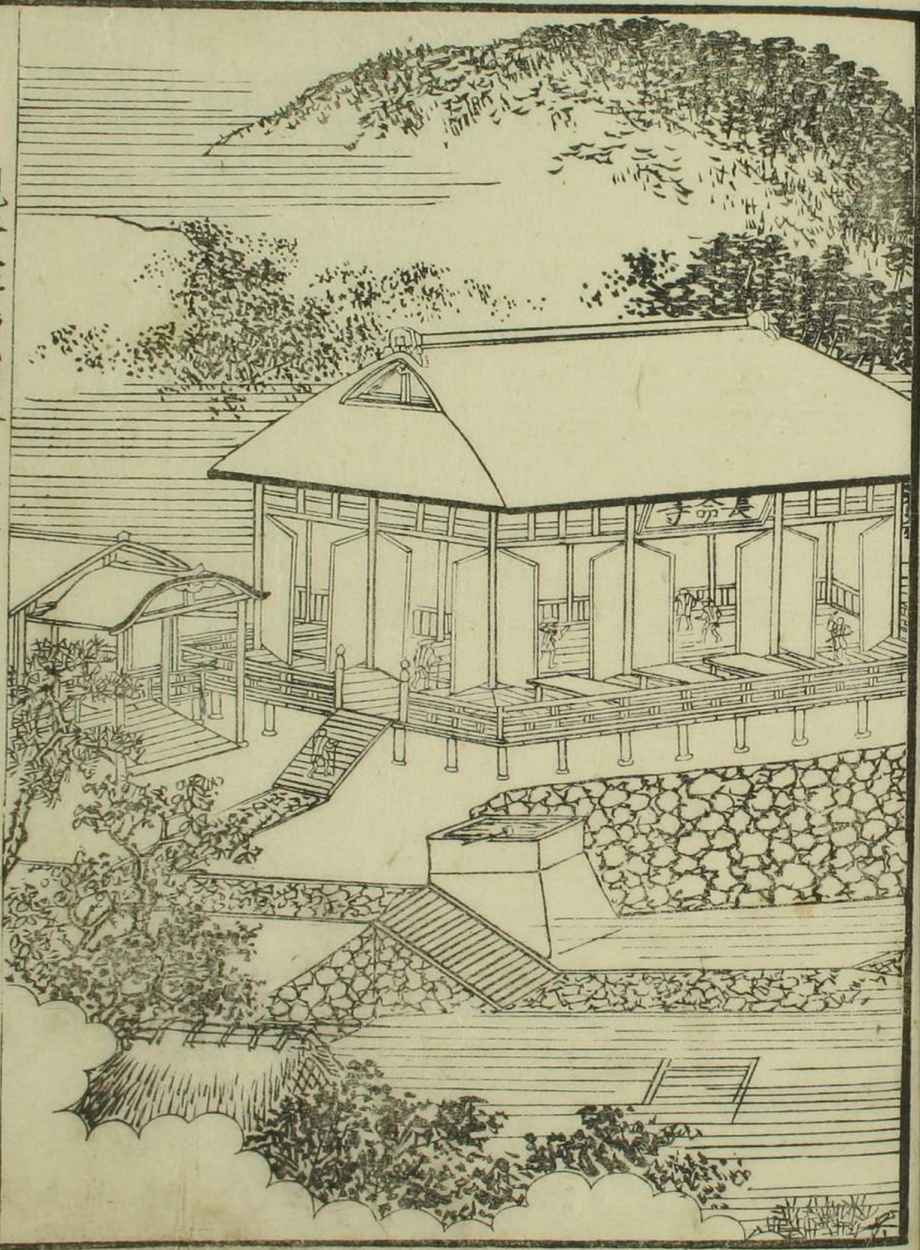
○第三十一番　近江國蒲生郡長命寺

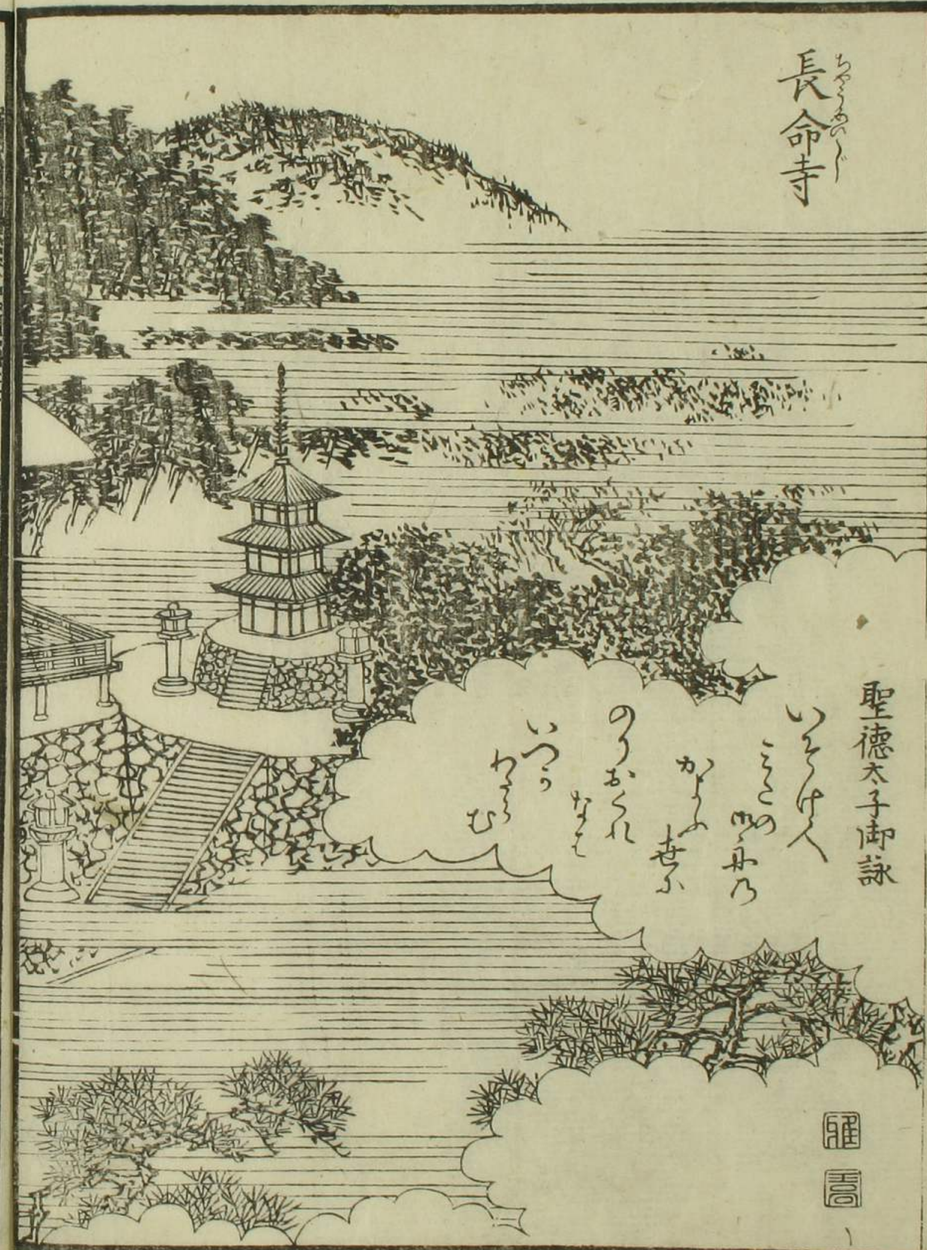
人皇三十四代推古天皇二十七年の四月廿八日女帝ましまし田村聖德太子の母公なり時に帝の御母公の祖母公わかせ給ふ豐浦寺にいらせ給ふ長命寺とも名づけ給ふ大方なぐさみの為とて柳の木を以て聖觀世音を刻みたてまつり給ふ其後世の人延命の為に長命寺と名付給ふ

[illegible]

[illegible]

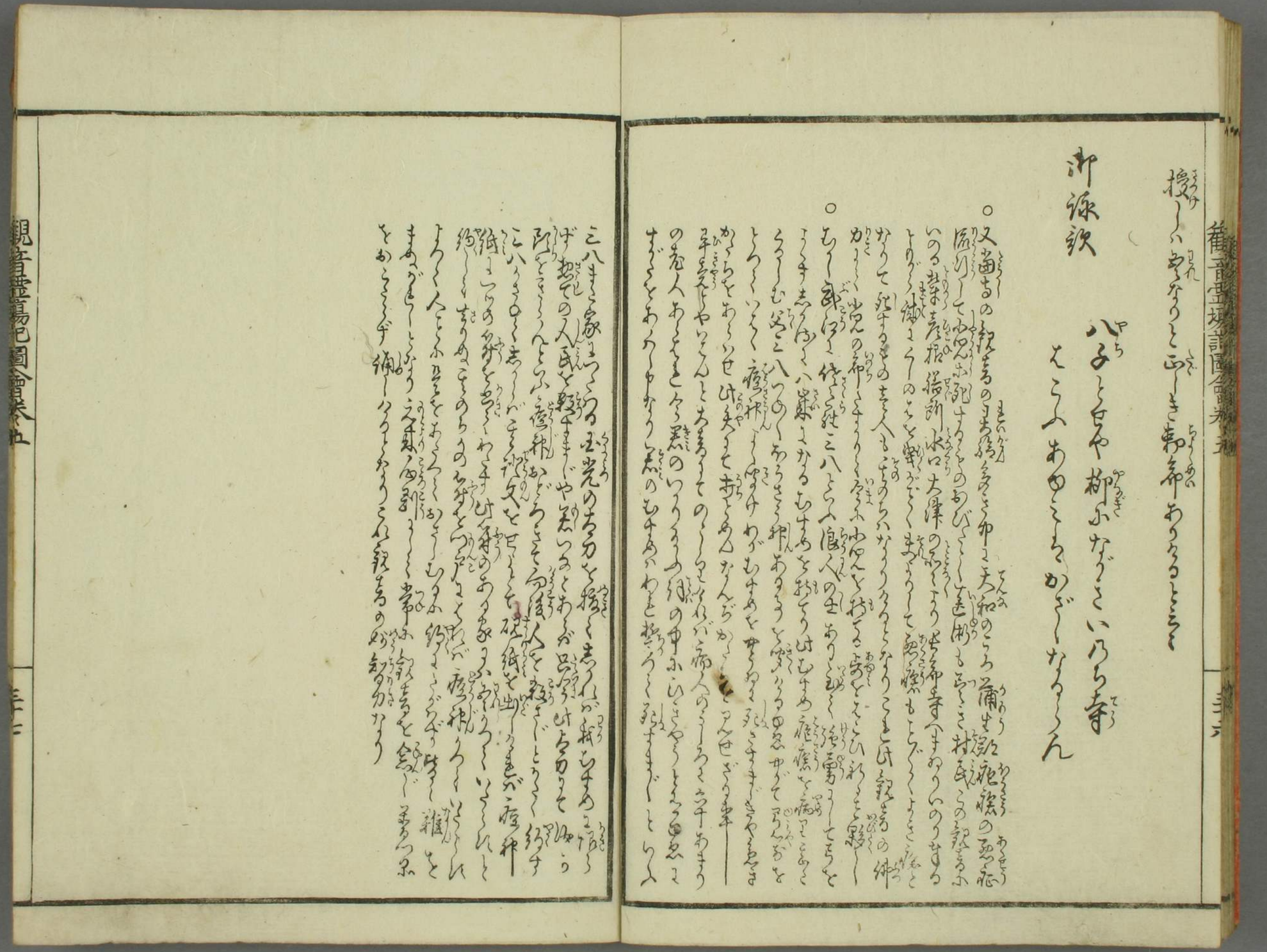
[illegible]


長命寺


長命寺
聖德太子御詠
いとけなく
こゝろの内の
かなしさは
のゝおくれ
なるこ
いつゝわすむ

再び元の形なきこやわんくゝ形をとゝのへて
四ふたり人の老人ゐて刻るを見あはせ指ゆびてそれと
ぶぎく行まるをとゝのりつゝ老人こゝろ
をとゝ人なるぶをさうり老人こゝ
うの老人はこゝろ法のゆるるをあふ刻ゝをとゝ
ひ仏のゆゝなり法ゝなる年七百歳八千年ゝ白髪の仙人紙
なりけ安の山麓ふ所庵をゝ刻る山ゝの記まるまゝ十年
刻老僧ものゆゝなりぶめ千年お火宅ゝ山麓ゝ住ゝ
まゝふ志ゝまゝゝ人ゝまをゝ志ゝ刻ゝ仏を出現ゝ
めゝ我もゝ力をゝ四ゝゝをゝ知ゝ白鳥ゝ化ゝ記ゝ
あゝをゝ法ゝ法ゝ夫ゝ山麓ゝ山ゝ冊様をゝ行ゝ
山麓ゝゝふわゝを山ゝ僧ゝ出現ゝ
ゝゝゝ法ゝ衣の神ゝ記ゝ法ゝ巳異人ゝけゝをゝ
ゝゝ逢立ゝゝ老僧寺の年ゝ
なゝゝゝ記ゝを眼刻て猛然の姿像を納め

ゝ衣なゝ　弘法大師八十八歳
弘法大師ゝ仁元年ゝ月ゝ上のゝ山麓ゝ百日のゝ籠まりゝ
法ゝゝ西ふ籠ゝまゝ度ゝて九千九日の夜ゝ
のゝゝゝゝ表理新分を捕ゝ
ゝゝゝゝ山分のゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ我いこゝ
安孫ゝゝ分ゝ安孫ゝ出現ゝ
御座のゝふ年ゝ訪ゝ仏ゝ
ゝゝ大師ゝゝゝ
てのゝまひゝゝ月ゝゝ
又仏ゝゝゝゝ
まゝゝ八幡大ゝゝ
ゝゝなんゝゝゝゝ
四ゝ遠ゝゝゝ
ゝゝ又ゝゝ孫ゝゝ



撥しへ[illegible]なりしこゝろき郡[illegible]あるところ

御詠歌　八ふとなや　都ふなごさいのうち寺
　　えらへあめこそかぎりなりけん

○又當寺の縁起に曰の[illegible]天和のころ蒲生[illegible]疫病の[illegible]
[illegible]いのる[illegible]大津の[illegible]
[illegible]

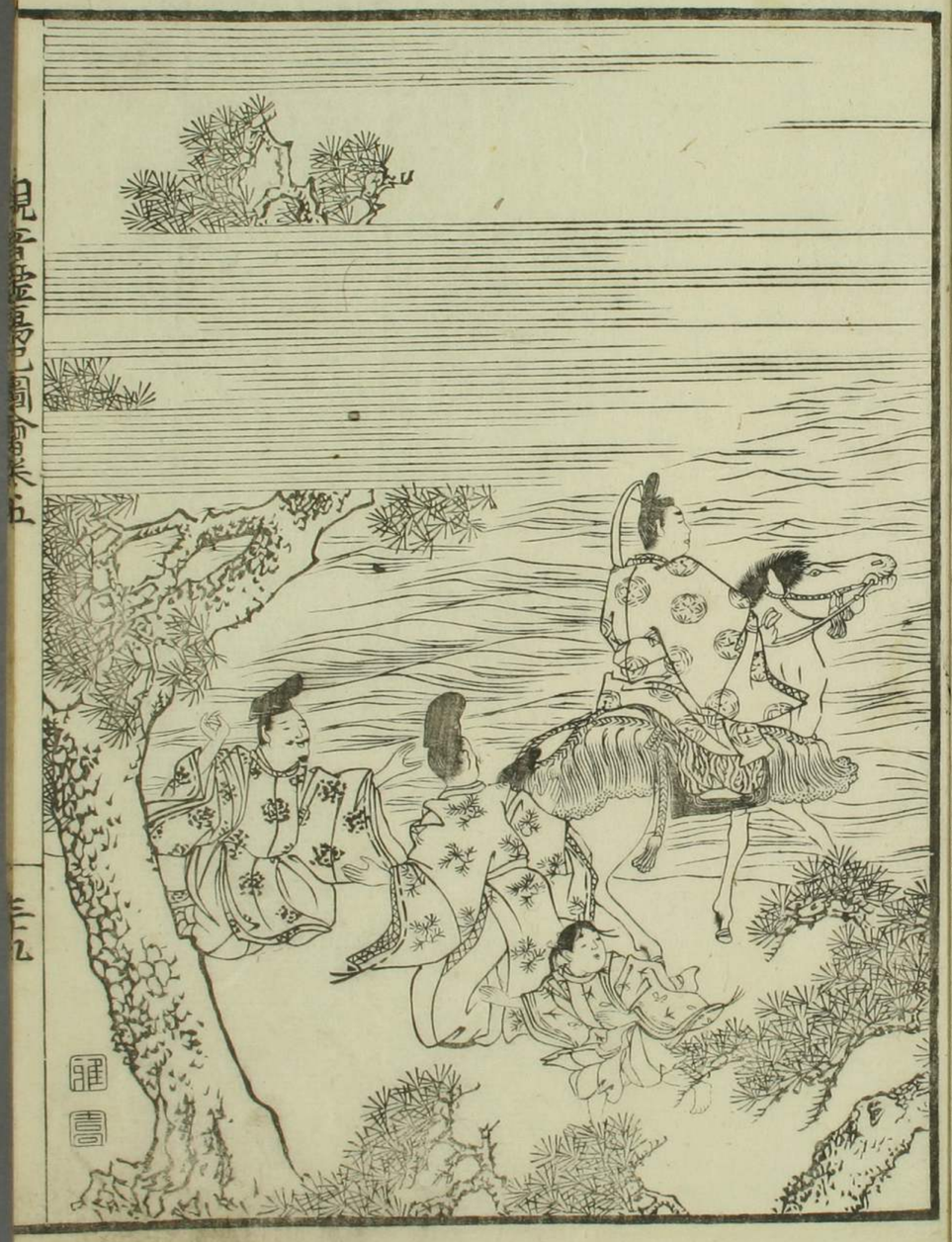
○もし[illegible]
[illegible]
[illegible]

○第二十一番　近江國神崎郡石塔寺村観音寺

人皇三十四代推古天皇御代聖徳太子の御作
[illegible]
[illegible]
[illegible]

つくら海の
ふかまれ
信を
ちかへそ
あらの
なくろ
なくそ
なくまくき

中務宗良
親王



出く山ゑんぢゝふ人魚の殿浦よゆ〻もくよ七年ゆまぢ刈ゐ立てこと
山手ゑ刈ゐ立てまふ人のこゑわなり

御詠歌

あみ〻ふとゑびとる人報恩寺
まをさくゝようとまふ人のゆゑを

山歌のとゝり行かぢをきゝうもあゆこをとこふをのあくぢ
なぐゝ花ある身とつゝも山殺ひゝけ猪とぢとゝふをゝ

○人魚の説話狭國風土記に狭の中浜とゝゑる所のあのゝ
料理名ゞ人ゝゝのすぢとゝて人料理いゝせゝゝ人魚と
なるむすめのおわさまへもかくゝ張合すゝとゝのゝ服と
ゝるとゝをもすぢ一家一門和尚ゝ家しゝ
ゝも山むすめぢゝ人家の半なゝゞ人魚ゝなゝ八百
業しゝかゝまぢ新ゝゝ年もゝゝ十五年のすぢなゝ
しゝゝゝゝゝ年ゝ笑ゝ居ゝふゝきなゝ人のゝて山年
ゝへゆゝ 林あ居へゆゝ あれあ百ゝ年あのゝゝ山ゞ居ゝ

山法師ゝゝ山ゞ人ゝゝ山ゞ生ゝゝ名ゝ猪ゝゝとゝ名ゝ山ゝゝゝ
ゝゝ山の帝の山ゝ帝を年ゝんゞ名ゝゝゝゝゝゝゝゝゝあゝき
魚山名ゝゝゝゝ猪のむすめゝゝゝゝゝ八百比丘尼とゞゆゝゝ
い猪ゝゝゝ猪のゝゝ猪ゝ逢ゝ山猪ゝ
住のゝゝ人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

○第三十三番　美濃國谷汲山華厳寺

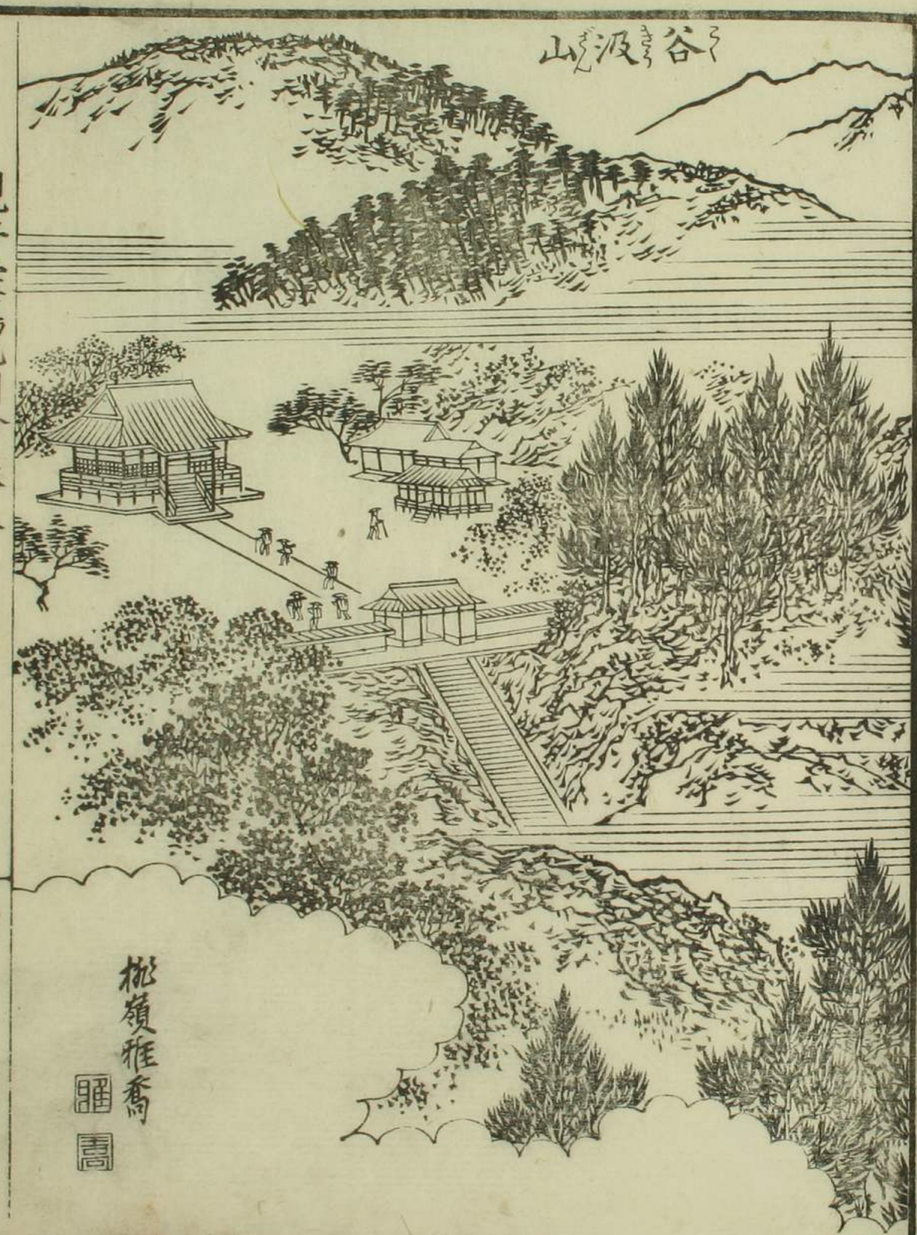
人皇五十代桓武天皇延暦二年の春なかの第山寺を建立し給ふ
仕給ふ人[illegible]
[illegible]
[illegible]

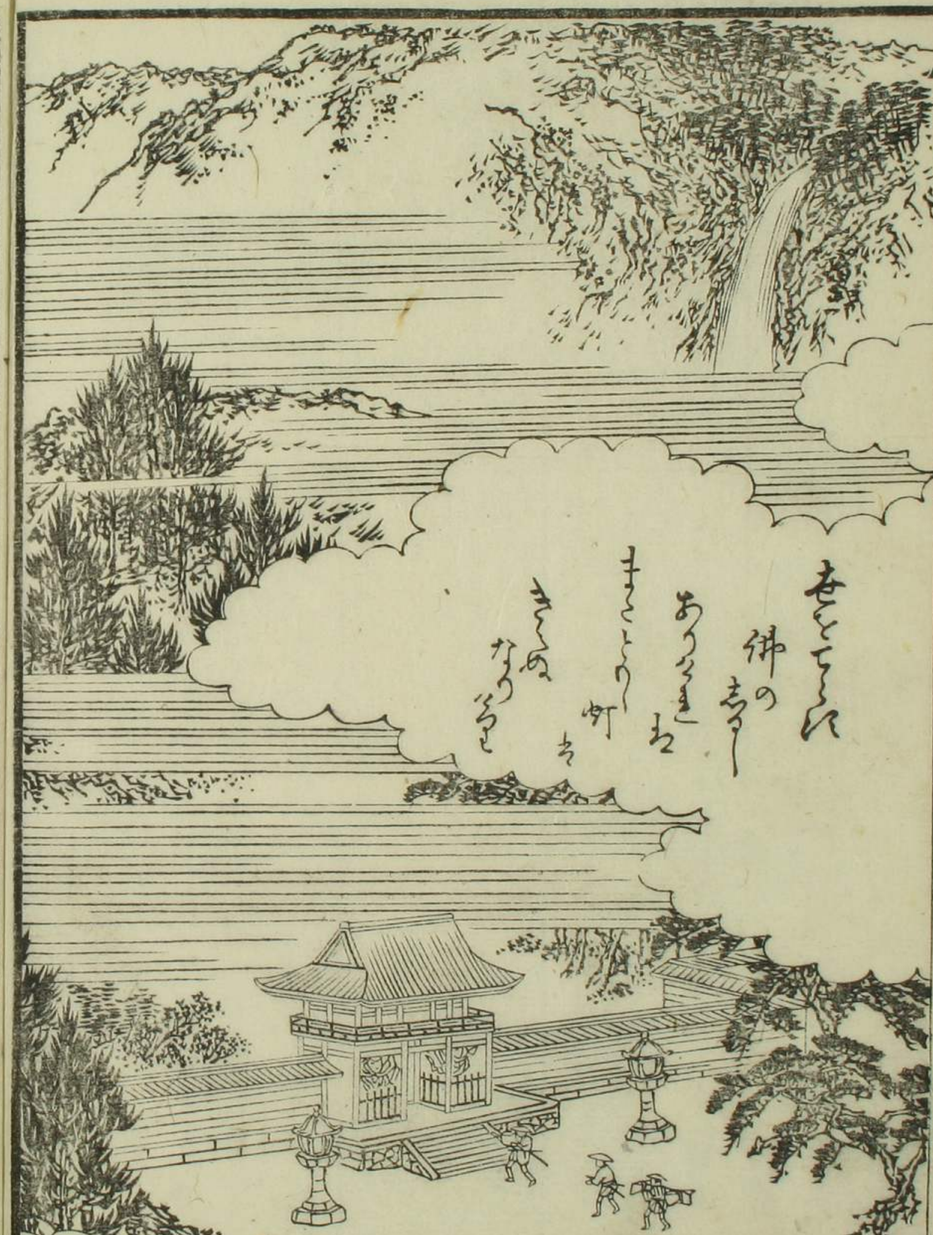
[illegible]

[illegible]

[illegible]

谷汲山





[illegible]平が二文孫とやまるの大和安倍文殊　丹後切浜文殊
[illegible]永丹文孫とやまるかるヨ[illegible]仏の四者の[illegible]
文殊化身の四仏なれば孫[illegible]なる事を仰ぐべし
[illegible]谷汲山とつるの[illegible]明の仲を[illegible]

御和歌

[illegible]
[illegible]
[illegible]代のちひとふたたびふかく
[illegible]よういづれ谷汲
[illegible]けのちひさくしば
[illegible]
[illegible]の[illegible]

あるべきい紙書物をしるなり[illegible]
かりさてはなんぢ十ケの功法あるべきさ事なり此れの日[illegible]
[illegible]人をもて[illegible]百物を紙[illegible]も紙[illegible]も先生[illegible]
[illegible]
[illegible]十ケ[illegible]法あり又[illegible]紙をきくこの
十ケ一の利益とかなれば書[illegible]きんぐあるて[illegible]紙とと[illegible]

一ハ　火難　少難　横死の難　登縄の難をのがる
二ハ　毒蛇　ぐもの[illegible]
三ハ　毒虫
四ハ　雷電
五ハ　[illegible]
六ハ　海川
七ハ　[illegible]
八ハ　[illegible]

五百
十五
法華経の飛騨の国の人の
法華経を信ずる事
法華経を信ずる人の
法華経を信ずる人の
法華経を信ずる人の

[illegible]

[illegible]

西国と名付くる所に貧人ありの時代に、ひとりの子あり。
五歳のころ、父に捨てられ、母に捨てられ、年七歳にして、
山谷を走り、流人に交じりて、泣き叫び、
哭泣して、悲哀かぎりなし。
ふつつかに、捨てられ、母に捨てられ、
都鄙を遍歴して、捨てられ、捨てられ、
さんざんなりや、捨てられ、捨てられ、
ずるずると、年月の来りやすく、一年
差異男女、捨てられ、捨てられ、
ありて、姉の捨てられ、捨てられ、
捨てられ、捨てられ、父母に捨てられ、
年もふけ、姉の捨てられ、
んのごとく、捨てられ、捨てられ、
なげきて、捨てられ、捨てられ、
捨てられ、捨てられ、出でぬ、

紀ノ国の姉の、二日あとに、父母に捨てられ、
捨てられ、捨てられ、捨てられ、
捨てられ、捨てられ、
捨てられ、捨てられ、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十句観音経

観世音南無佛與佛有因與佛
有縁佛法僧縁常楽我淨朝念
観世音暮念観世音念々従心
起念々不離心

四會撰次 辻本源基定

天保十五年辰八月
御免
弘化二年己初冬刻成
皇都書房 三條通柳馬場東入角 塘屋仁兵衛梓